

## 平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年1月28日

上場会社名 日清食品ホールディングス株式会社

上場取引所 東大

コード番号 2897 URL <http://www.nissinfoods-holdings.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長・CEO (氏名) 安藤 宏基

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員・CFO (氏名) 横山 之雄

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

TEL 03-3205-5111

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	278,630	0.4	24,209	25.7	28,402	25.5	17,856	114.3
21年3月期第3四半期	277,522	—	19,255	—	22,626	—	8,332	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	152.92	152.83
21年3月期第3四半期	68.16	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	421,414	283,185	65.7	2,392.58
21年3月期	408,729	285,569	68.4	2,287.21

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 276,693百万円 21年3月期 279,629百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
22年3月期	—	25.00	—		
22年3月期(予想)				35.00	60.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

平成22年3月期の期末配当金には、「生誕100周年記念配当」10円を含んでおります。

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	378,000	4.4	26,500	12.5	31,000	7.8	18,500	16.4	159.97

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
新規 ―社 (社名 ) 除外 ―社 (社名 )

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有  
(注)詳細は、5ページ 定性的情報・財務諸表等 4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第3四半期	127,463,685株	21年3月期	127,463,685株
② 期末自己株式数	22年3月期第3四半期	11,817,158株	21年3月期	5,206,128株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第3四半期	116,769,339株	21年3月期第3四半期	122,259,215株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき合理的であると判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性その他要因が内包されています。従って、実際の業績は、上記予想と異なる場合があります。なお、上記予想に関する事項は、定性的情報・財務諸表等 3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当四半期連結累計期間のわが国経済は、政府の経済対策等の効果もあり、景気は持ち直しつつあるものの、円相場の急上昇と、消費者物価の緩やかな下落に見られるデフレの再燃により、企業収益や雇用情勢の改善に水をさしかねない状況となっています。

このような中、当社グループは、今期も引続き、食品産業の根幹である食の安全性確保を最優先課題と位置付け、独自開発の残留農薬・動物用医薬品の検査システム等を活用し、使用原材料のチェックを行うことにより、消費者の皆様へ安全・安心な製品を提供できるよう努めました。品質面では、今期よりスタートしたプロジェクト「うまい！をきわめる。全麵革命」を実施するための設備改善を行ってきました。販売面においては、消費の三極化に対応する製品戦略等が功を奏し、当社グループの中核である国内即席めん事業を中心に、全般的に好調な業績となりました。

当四半期連結累計期間の業績としては、売上高は、2,786億30百万円（前年同期比0.4%増）となりました。利益面においては、北米地域での収益力の回復、国内の順調な売上等を背景に、営業利益が、242億9百万円（前年同期比25.7%増）となりました。経常利益は、284億2百万円（前年同期比25.5%増）となり、当四半期純利益は、投資有価証券評価損の減少等も加わり、178億56百万円（前年同期比114.3%増）となりました。

#### (1) 事業の種類別セグメントの業績は次のとおりです。

##### ① 即席めん及び付随する事業

即席めん事業では、消費の三極化に対応するため、①ブランド価値や質を求める層には、主力ブランド製品（コア・ブランド）の品質強化（めんや具材の品質アップ）、②価格を最重要視する層には、値ごろ感と安心感の強い製品（カンパニー・ブランド）の拡充、③楽しさや新規性を求める層には、新基軸の新製品（コンセプト・ブランド）の提案を行ってまいりました。

ブランド価値や質を求める層には、「カップヌードル」で具材をコロッとしたチャーシュー＝コロ・チャーに変更（4月）、「シーフードヌードル」には貝柱を加えて旨みを大幅にアップ（7月）、「カップヌードル カレー」ではカレー専用コロ・チャーを投入（9月）し、消費者の支持を得ています。

また、「うまい！をきわめる。全麵革命」も展開しており、新技術を駆使しためん質の向上を図っています。「日清麵職人」シリーズで、生めんのようなコシ、のどごしが味わえるめんに改良（8月）し、「日清のどん兵衛」シリーズでは、新製法の「太ストレート製法」により、「日清のどん兵衛」史上で最高に太い「ぶっとうどん」に改良（9月）しました。そして更に、11月には「全麵革命」実施以来初の新ブランドとして、「太ストレート製法」を進化させ、最太のめんの太さを実現した「日清 太麵堂々 濃厚魚介豚骨醤油」を発売し、好調な滑り出しを見せています。また、明星食品㈱においても、「スーパーノンフライ製法」で食感を高めた「究麵（きわめん）」が引続き堅調な売上となりました。

即席袋めんでは、「日清焼そば」が安定した売上が記録しましたが、「日清のラーメン屋さん」、明星食品㈱の「チャルメラ」等が前年同期を下回る販売結果となりました。

価格を最重要視するお客様に対しては、「スープヌードル」や「日清御膳」、明星食品㈱の「評判屋」等のお手軽価格製品群が大幅に売上を伸ばしました。

楽しさや新規性を求めるお客様には、「ミスト・エアードライ製法」「オリジナル3層麵製法」により、おいしさと低カロリーを両立させた「カップヌードル ライト」のような低カロリー志向の製品が支持を得ました。

海外では、北米地域で既存品を中心に堅調な売行きを示したものの、全体としては、為替の円高の影響により、減収となりました。

チルド・冷凍食品事業に関しては、日清食品チルド㈱で、チルドめんのおいしさを活かした「つけ麵の達人」シリーズが、また、日清食品冷凍㈱では、「冷凍日清スパ王」シリーズが売上を伸ばした他、前期の第3四半期から連結対象になった㈱ニッキーフーズが全期間を通して貢献したため、増収となりました。

この結果、即席めん及び付随する事業の売上高は2,496億32百万円（前年同期比0.8%増）、営業利益は223億38百万円（前年同期比28.2%増）となりました。

##### ② その他の事業

日清シスコ㈱については、ビスケットやチョコフレーク等の菓子類を中心に大きく売上を伸ばす一方、味の民芸フードサービス㈱の外食事業が減収となり、その他の事業としては減収となりました。

以上の結果、その他の事業の売上高は289億97百万円（前年同期比2.9%減）、営業利益は23億82百万円（前年同期比6.5%増）となりました。

(2) 所在地別セグメントの業績は次のとおりです。

① 日本

日本国内では、中核事業である即席めん事業を中心に好調な売上を記録し、この増収を背景に、営業利益についても増益となりました。

この結果、売上高は2,398億38百万円（前年同期比2.4%増）、営業利益は209億46百万円（前年同期比5.2%増）となりました。

② 北米

北米地域では、既存品のカップめん及び即席袋めんが好調な売行きを記録したものの、為替の円高の影響により減収となりました。営業利益は原材料価格の低下等により収益が改善され、黒字となりました。

この結果、売上高は206億49百万円（前年同期比7.7%減）、営業利益は18億14百万円となりました。

③ その他の地域

その他の地域では、2008年7月から実施した香港地域での即席袋めん及びカップめんの価格改定による販売数量の減少と為替の円高の影響により減収となりましたが、欧州地域での収益性の改善もあり、営業利益では増益を確保しました。

この結果、その他の地域の売上高は181億42百万円（前年同期比13.1%減）、営業利益は19億38百万円（前年同期比9.2%増）となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

### (1) 資産、負債、純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は次のとおりです。

#### (資産の部)

資産は、前連結会計年度末に比べ126億85百万円増加し、4,214億14百万円となりました。これは主に、現金及び預金が138億47百万円増加したこと、設備投資による有形固定資産が59億12百万円増加したこと、投資有価証券が98億21百万円減少したことによるものです。

#### (負債の部)

負債は、前連結会計年度末に比べ150億69百万円増加し、1,382億29百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金の増加により流動負債が39億99百万円増加したこと、長期借入金や退職給付引当金等の増加により固定負債が110億70百万円増加したことによるものです。

#### (純資産の部)

純資産は、前連結会計年度末に比べ23億84百万円減少し、2,831億85百万円となりました。これは主に、自己株式の取得を行ったことによるものです。

この結果、自己資本比率は65.7%、1株当たり純資産は2,392円58銭となりました。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、資金という。）の残高は804億72百万円となり、前連結会計年度末と比較して89億80百万円の増加となりました。当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は298億57百万円（前年同期比107億5百万円の増加）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益278億39百万円及び減価償却費67億35百万円によるものです。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の増加は12億85百万円（前年同期は257億23百万円の資金の減少）となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出134億35百万円、有形固定資産の取得による支出90億35百万円による減少があった一方で、投資有価証券の売却による収入207億93百万円、有価証券の売却及び償還による収入63億2百万円による増加があったことによるものです。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は226億86百万円（前年同期比160億6百万円の減少）となりました。これは主に、自己株式の取得による支出186億66百万円や配当金の支払額59億47百万円によるものです。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期の連結業績予想につきましては、平成21年10月28日に発表しました連結業績予想から変更は行っておりません。

### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）  
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①簡便な会計処理

該当事項はありません。

②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しています。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更  
該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	79,749	65,902
受取手形及び売掛金	52,398	44,456
有価証券	18,477	17,647
商品及び製品	8,590	8,235
原材料及び貯蔵品	7,232	6,990
その他	6,948	15,504
貸倒引当金	△395	△466
流動資産合計	173,001	158,270
固定資産		
有形固定資産		
土地	46,953	46,943
その他(純額)	60,091	54,188
有形固定資産合計	107,044	101,131
無形固定資産		
のれん	3,802	4,327
その他	702	452
無形固定資産合計	4,505	4,779
投資その他の資産		
投資有価証券	120,312	130,134
その他	17,448	15,122
貸倒引当金	△897	△709
投資その他の資産合計	136,863	144,547
固定資産合計	248,413	250,458
資産合計	421,414	408,729
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	48,664	43,163
短期借入金	1,839	4,636
未払金	19,966	19,066
未払法人税等	4,258	7,425
その他	18,005	14,442
流動負債合計	92,733	88,733
固定負債		
長期借入金	10,210	5,380
退職給付引当金	20,352	15,260
その他	14,933	13,785
固定負債合計	45,495	34,425
負債合計	138,229	123,159

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	25,122	25,122
資本剰余金	49,755	49,755
利益剰余金	247,662	235,052
自己株式	△33,016	△14,355
株主資本合計	289,524	295,575
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,057	△477
土地再評価差額金	△7,532	△7,532
為替換算調整勘定	△7,355	△7,935
評価・換算差額等合計	△12,831	△15,946
新株予約権	209	—
少数株主持分	6,282	5,940
純資産合計	283,185	285,569
負債純資産合計	421,414	408,729

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	277,522	278,630
売上原価	155,036	151,095
売上総利益	122,486	127,534
販売費及び一般管理費	103,230	103,324
営業利益	19,255	24,209
営業外収益		
受取利息	1,130	856
受取配当金	1,497	1,455
有価証券売却益	1,395	872
持分法による投資利益	717	998
その他	474	630
営業外収益合計	5,216	4,812
営業外費用		
支払利息	87	161
有価証券売却損	41	—
為替差損	1,158	—
その他	558	459
営業外費用合計	1,845	620
経常利益	22,626	28,402
特別利益		
固定資産売却益	347	10
貸倒引当金戻入額	—	83
投資有価証券売却益	137	3
その他	12	4
特別利益合計	497	102
特別損失		
固定資産売却損	558	8
固定資産廃棄損	—	255
投資有価証券売却損	—	60
投資有価証券評価損	4,020	112
関係会社整理損	—	181
減損損失	—	43
その他	320	3
特別損失合計	4,900	664
税金等調整前四半期純利益	18,223	27,839
法人税等	9,762	9,619
少数株主利益	128	363
四半期純利益	8,332	17,856

(第3四半期連結会計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	103,110	100,116
売上原価	57,655	52,396
売上総利益	45,454	47,720
販売費及び一般管理費	37,737	35,951
営業利益	7,717	11,769
営業外収益		
受取利息	303	198
受取配当金	437	679
有価証券売却益	1,395	—
持分法による投資利益	119	310
その他	162	145
営業外収益合計	2,418	1,333
営業外費用		
支払利息	62	57
有価証券売却損	41	—
為替差損	844	401
その他	326	37
営業外費用合計	1,275	496
経常利益	8,860	12,606
特別利益		
固定資産売却益	1	0
投資有価証券売却益	—	3
投資有価証券評価損戻入益	—	49
その他	—	7
特別利益合計	1	61
特別損失		
固定資産売却損	3	4
投資有価証券売却損	—	60
投資有価証券評価損	2,756	112
減損損失	—	42
その他	120	30
特別損失合計	2,880	250
税金等調整前四半期純利益	5,981	12,417
法人税等	3,313	4,871
少数株主利益	52	106
四半期純利益	2,616	7,439

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	18,223	27,839
減価償却費	5,807	6,735
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	4,802	5,044
持分法による投資損益 (△は益)	△717	△998
投資有価証券評価損益 (△は益)	4,156	168
売上債権の増減額 (△は増加)	△11,904	△7,591
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△482	△607
仕入債務の増減額 (△は減少)	10,918	5,479
未払金の増減額 (△は減少)	371	618
その他	△2,024	△1,618
小計	29,150	35,069
法人税等の支払額	△13,031	△13,733
法人税等の還付額	—	5,063
その他	3,032	3,458
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,152	29,857
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△2,747	△2,232
有価証券の取得による支出	△2,000	△0
有価証券の売却及び償還による収入	9,957	6,302
有形固定資産の取得による支出	△8,918	△9,035
有形固定資産の売却による収入	1,278	50
投資有価証券の取得による支出	△40,665	△13,435
投資有価証券の売却による収入	19,549	20,793
連結子会社の株式取得による支出	△2,185	—
貸付けによる支出	—	△1,402
その他	7	244
投資活動によるキャッシュ・フロー	△25,723	1,285
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	—	△2,806
長期借入れによる収入	—	5,720
自己株式の取得による支出	—	△18,666
配当金の支払額	△6,112	△5,947
少数株主への配当金の支払額	△23	△57
その他	△544	△928
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,680	△22,686
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,243	△106
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△14,495	8,349
現金及び現金同等物の期首残高	78,774	71,491
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	631
現金及び現金同等物の四半期末残高	64,278	80,472

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

	即席めん及び 付随する事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	93,125	9,984	103,110	—	103,110
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	1,776	1,776	(1,776)	—
計	93,125	11,761	104,886	(1,776)	103,110
営業利益	7,123	737	7,861	(143)	7,717

当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)

	即席めん及び 付随する事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	90,193	9,923	100,116	—	100,116
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	2,424	2,424	(2,424)	—
計	90,193	12,347	102,541	(2,424)	100,116
営業利益	11,124	850	11,974	(205)	11,769

前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	即席めん及び 付随する事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	247,653	29,869	277,522	—	277,522
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	4,705	4,705	(4,705)	—
計	247,653	34,574	282,228	(4,705)	277,522
営業利益	17,419	2,236	19,655	(400)	19,255

当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	即席めん及び 付随する事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	249,632	28,997	278,630	—	278,630
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	6,273	6,273	(6,273)	—
計	249,632	35,271	284,903	(6,273)	278,630
営業利益	22,338	2,382	24,720	(510)	24,209

(注) 1 事業区分は、製品の種類・性質等を考慮して区分しております。

2 各事業の主な製品

(1) 即席めん及び付随する事業……即席袋めん、カップめん、チルド食品、冷凍食品

(2) その他の事業……菓子、飲料、外食事業

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結会計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	その他 の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	88,775	7,618	6,715	103,110	—	103,110
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	199	13	0	213	(213)	—
計	88,974	7,632	6,716	103,323	(213)	103,110
営業利益又は営業損失(△)	7,485	△298	718	7,904	(186)	7,717

当第3四半期連結会計期間（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	その他 の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	89,336	5,656	5,123	100,116	—	100,116
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	228	—	—	228	(228)	—
計	89,564	5,656	5,123	100,345	(228)	100,116
営業利益	11,246	297	385	11,929	(160)	11,769

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	その他 の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	234,277	22,364	20,881	277,522	—	277,522
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	864	13	230	1,108	(1,108)	—
計	235,141	22,378	21,111	278,631	(1,108)	277,522
営業利益又は営業損失(△)	19,920	△1,960	1,775	19,735	(480)	19,255

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	その他 の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	239,838	20,649	18,142	278,630	—	278,630
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	902	—	—	902	(902)	—
計	240,741	20,649	18,142	279,532	(902)	278,630
営業利益	20,946	1,814	1,938	24,699	(489)	24,209

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

(1) 北 米……米国、メキシコ

(2) その他の地域……中国、ドイツ、ハンガリー

## 〔海外売上高〕

前第3四半期連結会計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	7,666	6,821	14,487
II 連結売上高（百万円）			103,110
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	7.4	6.6	14.1

当第3四半期連結会計期間（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	5,693	5,257	10,950
II 連結売上高（百万円）			100,116
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	5.7	5.3	10.9

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	22,558	21,277	43,835
II 連結売上高（百万円）			277,522
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	8.1	7.7	15.8

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	20,789	18,523	39,313
II 連結売上高（百万円）			278,630
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	7.5	6.7	14.1

（注）1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 北 米……米国、メキシコ

(2) その他の地域……中国、ドイツ

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

## （6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成21年5月20日及び平成21年5月27日開催の取締役会における自己株式の取得に関する決議に基づき自己株式の取得を行うとともに、ストック・オプション行使による払出し等もあり、前連結会計年度末に比べ、自己株式が186億61百万円増加しています。この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己株式は、330億16百万円となりました。

## 6. その他の情報

(重要な後発事象)

### 1. 自己株式の消却

当社は、平成22年1月12日の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき自己株式を平成22年1月28日に消却することを決議いたしました。

- |                 |                                      |
|-----------------|--------------------------------------|
| (1) 消却する株式の種類   | 当社普通株式                               |
| (2) 消却する株式の数    | 10,000,000株（消却前の発行済株式総数に対する割合 7.85%） |
| (3) 消却日         | 平成22年1月28日                           |
| (4) 消却後の発行済株式総数 | 117,463,685株                         |

### 2. 自己株式の取得

当社は、平成22年1月28日の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項を決議いたしました。

- |                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| (1) 自己株式の取得を行う理由 | 機動的な資本政策の遂行のため。       |
| (2) 取得に係る事項の内容   |                       |
| ・取得対象株式の種類       | 当社普通株式                |
| ・取得しうる株式の総数      | 5,000,000株（上限）        |
| ・株式の取得価額の総額      | 16,500,000,000円（上限）   |
| ・株式取得期間          | 平成22年1月29日～平成22年3月24日 |